

# ASHLEY HOWARD 'SURFACE IN FORM'



15 FONT | H 20 x D 29 CM



20 BLUE HORIZON IV | H 17.5 x D 14 CM

## アシュリー・ハワード展

**GALLERY ST. IVES**

Tokyo | Japan

## アシュリー・ハワード

私は幸運にもファーマムのクリエイティブアーツ大学で教職に就いています。このキャンパスにはクラフツ・スタディ・センターがあります。同センターは研究所であると同時に一般公開されている専門分野の博物館であり、国際的に有名な現代英国工芸のコレクションの拠点でもあります。同センターにおいて陶磁器は重要な役割を果たしており、故サイモン・オールディング教授は、この分野における英国と日本をつなぐ財産が育まれ継続されることを確かなものとし、その財産は現在スティープン・ノット博士の手に安全に委ねられています。

ご存じの通り、日英両国の関係の基礎はバーナード・リーチと濱田庄司によって築られました。ギャラリー・セントアイヴスの井坂浩一郎氏の陶芸への関わりは、リーチと濱田の仕事から生まれた遺産と、二人が20世紀のイギリスのスタジオ・ポタリー運動に与えた影響によるものと認識されています。

ギャラリー・セントアイヴスから、素晴らしい空間で私の作品を展示する話をいただき、大変光栄に思っています。それは私にとって大きな意味があるものです。この展覧会の作品は、表面とフォルムの関係に焦点を当てています。色が表面にとどまっているのではなく、釉薬の表面から内部へ沈み込んでいくという私の研究に基づいて、この展覧会を「Surface IN Form」と名付けました。このアプローチは、2018年にギルドフォード大聖堂で開催された私の展覧会『Meditations』のカタログの中で、エイドリアン・ブランドによって次の通りわかりやすく説明されています。『ハワード自身も、初期の頃は装飾

に関して消極的であり、「絵を描く陶芸家」であることを控えていたと語っています(Howard, 2018)。そしてしばらくの間、彼の特徴的な装飾はスケッチブックの中だけのものでした。このような控えめな姿勢でいたことで、技術的に最初に直面したのは、装飾がフォルムの上に留まるのではなく、器に沈み込みフォルムと一体化するための適切な材料とプロセス、そして温度についての研究でした。』

私は現在、絵と陶芸作品のフォルムとの関係をより詳しく研究しており、上記で提起された問題を探究しています。作り手として大事なものは、前進し続けることと、これまでに起きた事象について問うことです。この分野において日英両国を結び付けたバーナード・リーチと濱田庄司に大いに敬意を表し感謝しています。井坂浩一郎氏はその守護者であり、彼の仕事が長く続くことを願っています。





6 RED SWEEP | H 10 x D 10.5 CM



11 CASCADE | H 13 x D 18 CM



10 GOLDEN GAUZE | H 20 x D 16 CM



8 BREACH | H 10 x D 10 CM



12 VEILED WAVES | H 10 x D 12 CM



1 GOLDEN GRID | H 13 x D 12 CM



2 NEBULA II | H 10.5 x D 12 CM



9 BLACK TIDE | H 10 x D 11 CM



2 NEBULA II (反对面)



4 VARIANCE | H 12 x D 12 CM



19 BLUE HORIZON III | H 18 x D 15 CM



3 NEBULA | H 10.5 x D 12 CM



14 VERTICAL HORIZON | H 11 x D 10.5 CM



3 NEBULA (反对面)





7 YELLOW WINDOW | H 10 x D 12 CM



17 BLUE HORIZON I | H 16 x D 15 CM



18 BLUE HORIZON II | H 16.5 x D 16 CM



16 VEILED GRAFFITI | H 10 x D 11.5 CM

## アシュリー・ハワード 略歴

アシュリー・ハワードは、ケント州のメドウエイ芸術デザイン大学で陶芸を専攻、制作と教職を両立したキャリアを築いてきました。2001年には英国王立芸術大学で修士号を修得、技術や美的なテーマについて執筆を続ける一方で、世界各地で作品の展示、実演、公演を行ってきました。日本でも個人や共同でのプロジェクトを実施してきました。

2004-5年には、英国王立美術大学の同窓生であるマーティン・ラングレイと共同でロクロで制作した作品の可能性を示す展覧会「Full Circle」を開催、世界各地を巡回しました。続いての野心的なプロジェクト「Ritual and Setting」は、ウィンチェスター大聖堂からインスピレーションを得て同聖堂のために制作した作品を披露しました。「Ritual and Setting」は、現代陶芸の伝統において英国の教会で展示される最新作で、過去の例としては、コベントリー大聖堂のハンス・コパー(1960年代)とリンカーン大聖堂のロビン・ウェルチ(1980年代)の作品があげられます。

2012年から2014年にかけて、ハワードは日本の陶芸家・正親里紗との共同プロジェクトに取り組みました。展覧会「From Island to Island(島から島へ)」はコーンウォール州セントアイヴスのリーチ工房のギャラリーで開催し、ファナムのクリエイティブアーツ大学へと巡回しました。

2014年の夏、ハワードは信楽での滞在制作で色と精神性を探求する作品の制作に取り組み、その作品は、ギルドフォード大聖堂で開催された展覧会「Meditations(瞑想)」で披露

されました。この展覧会を通じてハワードは、陶芸作品を取り巻く瞑想的、思索的、比喩的な問題に取り組むようになり、また、陶芸作品を展示ギャラリーとは異なる空間で展示することの一環として、特定の建築物における会場と規模の見識に挑むようになりました。

2017年には、ハワードの英国におけるエージェントであるJ.J.ローリング氏が企画して私的な会場で開催された大変誉れ高い展覧会「Exploring the Vessel」において、ウィリアム・スコットの絵画と共に紹介されました。

今春、ハワードの作品はロンドンのサマセット・ハウスで開催される英国最高の現代工芸のショーケース「Collect」で特集されました。そして現在は、今夏にサフォークで開催されるオールドバラ音楽祭の一環として披露される作品に取り組んでいます。この新作はフェスティバルの楽曲に呼応するものであり、ハワードの作品における描画と制作の関係をより深く考察しています。





## ◆ アシュリー・ハワード展 ◆

会期 2024年3月23日～4月7日  
発行 ギャラリー・セントアイヴス  
東京都世田谷区深沢3-5-13  
[www.gallery-st-ives.co.jp](http://www.gallery-st-ives.co.jp)

編集 井坂浩一郎 / 小池 瑠美 / 城田 直美

英国・ロンドン南西のサリー州ファーナム、旧くからの陶房で作陶するアシュリー・ハワードの作品展をギャラリー・セントアイヴスで初めて開催いたします。華やかな装飾が施された優雅なフォルムの作品をこの機会にどうぞ高覧ください。